



Ash -Open Secret- 2012 お香



Ash -Eternal Dream- 2012 お香

スイッチ  
押すの  
押さないの  
どっちなの

木戸龍介展

Kido  
 Ryusuke

2014年1月7日(火)～1月28日(火)

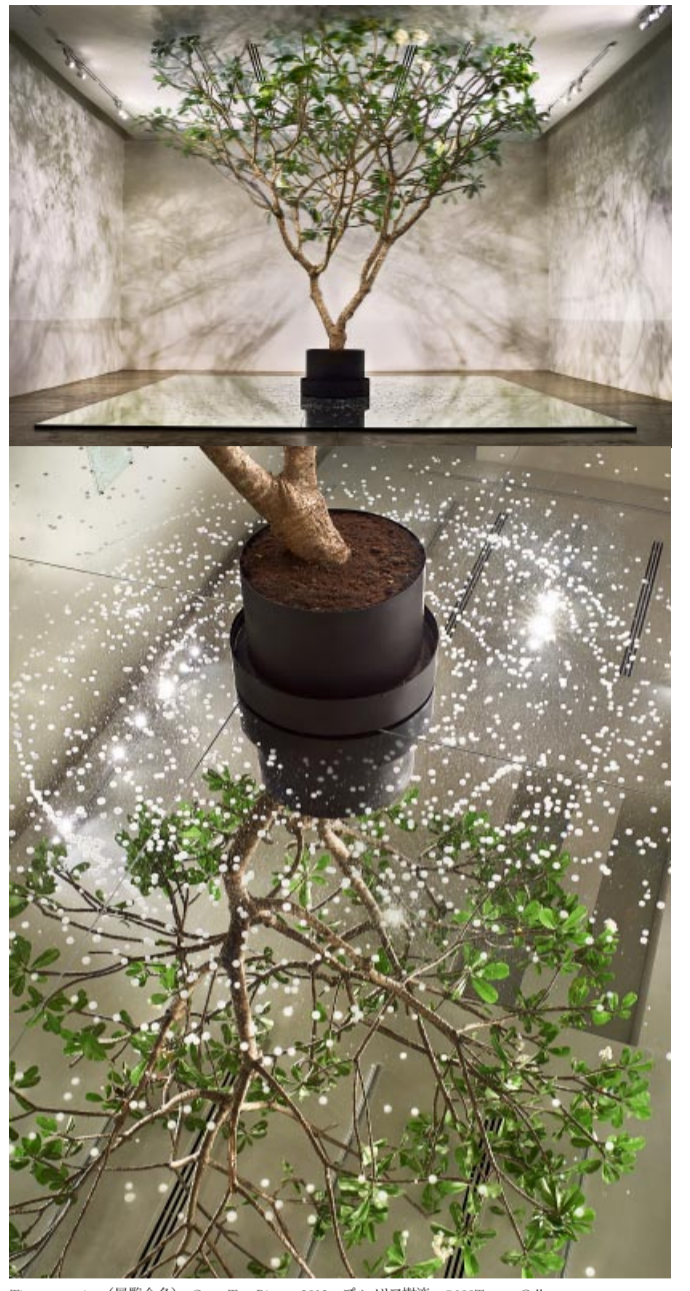
水曜日休館 10:00a.m.～6:00p.m.



LIXIL GALLERY  
 東京都中央区京橋3-6-18 東京建物京橋ビル LIXIL: GINZA 2F  
 phone 03-5250-6530  
 制作発行: 株式会社LIXIL デザイン: SOUVENIR DESIGN INC.  
<http://www1.lixil.co.jp/gallery/>



White Rain -Diogenes' Lamp- 2013 ロウソク、ランプ/ベルリン、ドイツ



Time remapping (展覧会名) Outer Tree Rings 2013 プルメリア樹液 ©100Tonson Gallery



Inner Light 2012 石膏ボード、机、椅子/ブルームバーグ・パヴィリオン 東京都現代美術館



Thirst for Sin 2011 大理石 H2200×W800×D600mm



Falling 2009 大理石 H2200×W1200×D300mm

——木戸さんは、大理石や楠を細密に彫刻して水や自然を表現する作品でトーキョーワンダーウォール2010入選や東京都現代美術館パヴィリオン大賞など受賞されてきました。2013年は海外レジデンスが多かったようですが、今展で展示する新シリーズ「Ash」はどのようにして生まれてきたのですか

木戸：大学時代から石や木といった物質として強い物を使って作品を作ってきましたが、それだけでは表現できないことを考えるようになったところから色々試しはじめました。最初は固形入浴剤に街を彫って溶かしたり、鉛や薬に形を彫ったりしました。一度作ったら基本的に形の変わらない石や金属といった素材にたいしての反動もあったと思います。作った物が形を変えていくということがおもしろく色々試している時に灰の形に出会いました。強固な石彫等に対して今にも形を崩してしまいそうな灰の形の緊張感に魅力を感じました。

確かにあるところから作品が変わっている印象を受けると思うのですが、自分としては大きく違うことをしている意識はないです。ただ、トーキョーワンダーサイトやアーティストインレジデンスで色んな国の人達や素晴らしいアーティスト達に関わったり、実際に色々な場所に行って、自分の活動と社会との関係をどう

繋げていくのかということを考えるようになったことが作品に影響を与えたことは大きいかもしれません。——実際に海外レジデンスではどのような作品を制作されましたか

木戸：ベルリンのレジデンスの成果報告展は「White Rain -Diogenes' Lamp-」(2013)です。この作品はロウソクのロウを一滴ずつ垂らすことの蓄積で出来上がっていきます。日本地図で山脈の場所も忠実に再現しています。日本の神話を思い出しながら作りました。会期中には、来場者の方に色付きのロウソクを上から垂らして自由に色を付けたり、絵を描いてもらいました。印象的だったのは、小さい子供が色々な色のロウソクで自分の好きな絵を描いた時の光景です。それぞれ皆好きな色で好きな絵柄を描いているので、全体で引いてみるとどうなのかなって状況になっていくんです。その子はそこが気になったようで、上から白いロウソクを使って自分の絵の周りを消し始めました。その子にとってはそれは正義なのですが、果たして消された人の気持ちはどうなのか、自分がクレイだと信じてやっていることが他から見れば180度違うということもあるということを考える作品になりました。

——東京都現代美術館でも平田晃久さんのパヴィリオンでの制作経験がありましたが、タイでも他の作家とのコラボレーションをされたそうですね

木戸：タイで共同制作した作品が「Outer Tree Rings」(2013)です。

Wit Pimkanchanapongさんはキャリアのあるアーティストでメカニックやメディアを使った作品を制作しています。ワンダーサイトで知り合い、彼が展覧会をタイで開催する時に、そこでコラボレーションすることになりました。彼が僕に興味を持ってくれた理由は、若いのに古典的な技法を使い、時間を掛けてやっているのはなぜなんだと言うところだったそうです。タイでは自転車旅行をしたり、一緒に生活した中から出てきたアイデアを紡いでいきました。この作品は、下が鏡で、展覧会の会場ではゆっくりと木が回転しています。木はプルメリアで、花が咲き、よい薫りがして、切ると樹液がぽたぽた出てくるんです。回転している木から樹液が垂れることで、円が描かれていきます。タイにはゴムの木がたくさんあって、切って樹液を集めて生産するところがこの作品の発想のきっかけです。ロウソクの時と同じ、垂れたもので何かを描くところは繋がっていますね。

——滞在先の環境からの影響は大きいそうですね

木戸：そうですね。フィンランドのレジデンスでは、今度は正反対の田舎に暮らしましたが、自然保護区の森と海だけで、夜になると真っ暗で、渡り鳥などの野鳥が集まってくる、すごく自然の美しい所でした。そこで、初めてのことでしたが何かここでしかできないことを試してみたくて、映像の作品を作りました。フィンランドの森の中でお香を燃やす映像で、BGMは鳥の声です。展覧会会場ではお香をひとつ燃やしました。薫りは日本のお香で向こうではオリエンタルな感じに受け取られたようです。ここでは煙や残香など、ある存在の痕跡というか、物の発したものが自然の中に広がっていくことを考えました。これまで彫刻を制作してきましたが、彫刻にはBGMがないし、時間の流れがないんですね。初めて映像作品を制作してみて難しかったですね。自分の弱い部分のはっきりと出てしまったと思います。でもよききっかけになりました。これから色々なことを試していきたいと考えています。

インタビュー：大橋恵美 (LIXILギャラリー)  
2013年11月7日



## 木戸 龍介

Kido Ryusuke

1984 東京都出身  
2009 多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業  
2011 東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士課程修了

### 展覧会歴

2013 アーティストインレジデンス Saari residence (フィンランド)  
TO. BE (tokyoberlin) (シフノス島、ギリシャ)  
White House Biennial (アテネ、ギリシャ)  
The Third International Stone Sculpture Colony (デニズリ、トルコ)  
Time Remapping with Wit Pimkanchanapong (100Tonson Gallery, バンコク、タイ)  
MAP (Tokyo Wonder Site Berlin in Kunstraum Bethanien, ベルリン、ドイツ)  
2012 LIDINOS FOR SYRIA (Aegina, ギリシャ)  
I Think I Can, I Think I Can (Casa Matei Gallery, Cluj Napoca, ルーマニア)  
個展 プルームバーグ・パヴィリオン公募大賞受賞者展「Inner Light」(東京都現代美術館)  
Hydra School Project (Hyra, ギリシャ)  
TWSレジデンス成果報告展「YOKYO STORY」(トーキョーワンダーサイト本郷)  
2011 アーティストインレジデンス Tokyo Wonder Site (10月～3月 トーキョーワンダーサイト青山滞在)  
個展 TWS-EMERGING2011 (トーキョーワンダーサイト本郷)  
第59回東京芸術大学卒業・修了制作展(東京芸術大学美術館)

2010 プリュス トウキョウ・コンテンポラリーアートフェア  
日韓彫刻交流展「STONE ROAD」(上野の森美術館ギャラリー)  
トーキョーワンダーウォール2010入選展(東京都現代美術館)  
2009 「アトリエの末裔あるいは未来」展(旧平藤田中邸)  
NHK連続テレビ小説「つばさ」記念碑設置(川越/鏡山酒造跡地)  
越後妻有トリエンナーレ「克雪ダイナモアートプロジェクト」  
東京五美術大学連合卒業・修了制作展(国立新美術館)  
2008 Art Program Om2008「ポストスター」(青梅市街)  
「第3回各務ヶ原市彫刻のある街づくり」優秀作品選出  
ギャラリー 1/3個展 「みずのかたち」  
ギャラリー 1/3企画グループ展(5月、6月、7月、10月、11月)  
2007 多摩美術大学彫刻学科八王子展(八王子/いちようホール)